



Flash News

フラッシュニュース

三重大学

第二号

目次

法人化に向けてー医学部の先進的な取り組み
関節リウマチ患者用のサプリメントを企業と共同研究
新教育学部長は語る・学部長職は「宣伝役」
三重TLO発足第一号の特許
産学官共同開発を経て実用化を目指すリポソームワクチン

医学部図書館に「黒川記念文庫」
卒業控えた音楽科
津でファイナルコンサート

お知らせ

- ・運営諮問会議の開催
- ・平成15年度国際交流基金・国際交流事業
- ・三重大学データベースの構築
- ・投稿のお願い

法人化に向けてー医学部の先進的な取り組み

限られた人的資源で効果的な研究体制を構築する一つの方策として、プール化した定員の重点的再配分が有効です。医学部での取り組みを紹介します。

医学部では平成14年度中に助教授1、助手23の定員をプール化し、学部長/病院長のもとにおき、教官定員削減に充てるとともに、15年度生命科学研究支援センター教官や病院診療科教官等の概算要求振り替え定員に充ててきました。そして、2つの定員は学部長/病院長の自由に使えるものとして、その任期の範囲内で運用することになりました。また、残った5つの助手定員を一般貸与定員として、研究上/診療上の緊急度・必要によって短い任期で貸し出すことを決めました。講座主任または研究グループの代表が応募できることにして貸与申請を公募したところ、5つの定員に対して16の応募がありました。学部長/病院長が選定し、3月11日の教授会で承認され、4月1日から1年間の任期(再任も可)で就任の予定です。

この取り組みについて鎮西康雄医学部長と葛原茂樹病院長は、次のように語っています。「今回の措置は、すでにいくつかの大学で始まっていますが、プール化定員の重点配分の考えを適用したのものとして、先進的な取り組みと言えるのではないのでしょうか。法人化に向けて、リーダーが真にリーダーシップを発揮できるためには、リーダーのもとに自由になる人・金・物を集中し、一定のポリシーのもとにそれらを重点配分する体制が必要となると思います。」



鎮西医学部長

葛原病院長

関節リウマチ患者用のサプリメントを企業と共同研究

関節リウマチは、関節の中の滑膜が障害されるため全身の関節の破壊をきたす病気です。そのため階段を下る時やしゃがむ時に膝の関節が痛くなったり、手足の関節がおかされて箸が持てなくなったり、歩けなくなります。強い痛みを伴い、関節の軟骨修復は難しいとされています。

今回、三重大学医学部の内田淳正教授を中心とする整形外科のスタッフと津市内のサプリメント開発企業が取り組んでいるサプリメントは、グルコサミンを主成分とし、サメの軟骨など数種類の材料を配合したもので、軟骨の再生が期待できるものとして、大学附属病院でリウマチ患者の臨床試験でその効果を調べています。また、このサプリメントの投与によりこれまで服用中の鎮痛剤や抗リウマチ薬を減少させることが期待できるため、副作用の軽減にも繋がるものと考えられます。さらに、内田教授らは、変形性膝関節症の予防や癌の転移を抑える効果にも有効ではないかと、動物実験による確認も行なっております。4月頃には、有効性の評価ができる見通しで、順調にいけば、6月頃、店頭に並ぶことになりそうです。

現在、関節リウマチの患者数は約70万人、膝関節症の患者数は65歳以上の人の30%で700万人を越えます。予防にも効果大のこのサプリメントを待ち望んでいる人々からの問い合わせも、多く届いております。



内田教授



新教育学部長は語る・・学部長職は「宣伝役」

この4月から教育学部長として川口元一現学部長のあとを受け、丹保健一教授が就任します。丹保教授は、国語学を専攻し、日本語の構文、語彙などを研究してきました。新学部長の目の前には、「大学改革」という大きな課題があり、研究時間へのしわ寄せも懸念されます。しかし、これまで、数多くの委員会に加わり、大学改革、カリキュラム改革等を進めて来た実績をお持ちの丹保教授は、地域との連携に心を砕き、「地域・社会が何を求めているのかを正確に理解した上で、それに効率的に答えていきたい。そのためには、学内、学外に対して、正しい情報の提供が重要である」と学部長職の心構えを話されています。

三重TLO発足第一号の特許。産学官共同開発を経て実用化を目指すリポソームワクチン

工学部吉村哲郎教授と生物資源学部宮崎照雄教授は、2年間に亘り学長裁量経費を得て、学部横断的共同研究を行い、極めて困難とされていた養殖魚介類細菌及びウイルス感染症に対する経口リポソームワクチンの開発に成功しました。両教授は、中部経済産業局の支援の下、広域研究会を通して産学官共同開発により、このワクチンの実用化を目指すことになりました。本開発は、三重TLO発足第一号の特許として早期取得の見通しです。さらに、今後、ヒト及び家畜の感染症に対する経口ワクチンへの展開を模索して行く予定です。

医学部図書館に「黒川記念文庫」

昨年12月、津市出身の黒川登(みのる)さん(94歳)から、「医学教育に役立ててほしい」と200万円の寄付の申し出がありました。大学側は、「形に残したい」と書籍など百冊を購入し、本棚にまとめ「黒川記念文庫」と名付け、医学部図書館に設置しました。2月13日に黒川さんが入居中の河芸町のケアハウス「グリーンヒルかわげ」に、鎮西康雄医学部長と山本哲朗医学部図書館長らが訪ね、黒川さんに感謝状、大学の記念メダル、記念文庫に収めた書籍の目録などを手渡し、感謝の言葉を述べました。黒川さんは、「感謝状を部屋に飾りたい」と喜んでおられました。

卒業控えた音楽科 津でファイナルコンサート

教育学部音楽科51期生が2月22日、津市の津リージョンプラザで卒業記念演奏会を開催いたしました。女性7人の4年生は、ピアノ、ホルン、サクソ等の独奏を中心に、1年近く練習に励んできた成果を披露、その演奏と歌声に、約400人が聴き入りました。昨年、音楽棟が火災に遭い、楽器や楽譜の一部を焼失し練習場も使えなくなりましたが、OBや知人らの支援によって、開催することが叶いました。当日、父母や卒業生の見守る中、会場からは盛大な拍手が鳴り響いておりました。

お知らせ

運営諮問会議の開催

三重大学運営諮問会議が3月27日に開催されました。本諮問会議は、大学の教育研究上の目的を達成するための基本的な計画に関する重要事項などを、学長の諮問に応じて審議し、学長に対して助言、勧告を行います。今回は北川正恭三重県知事等、各委員が出席されました。本諮問会議の答申は本学ホームページ学内情報に順次掲載されます。平成13年度の答申は (<http://www.mie-u.ac.jp/gakunai/simon/tosin.pdf>) をご覧ください。

平成15度国際交流基金・国際交流事業に関する経費の決定

この件に関しては、大学主催国際交流事業として位置づけられた「第10回3大学ジョイント・セミナー・シンポジウム」の他に20件の応募がありましたが、国際交流室で慎重に審査した結果、11件の事業の採択が決定されました。国際交流フォーラム「21世紀の大学における教育研究環境の質的整備のあり方」、「三重大学とコンケン大学の学生研修交流事業」、「国際インターンシップの試行」、「異文化理解講座・日本と中国 同じところと違うところ」などです。豊田康国際交流室長は、「選にもれた計画の中にも良いものがありました。予算等の関係で割愛せざるをえませんでした。次回は、一歩踏み込んだ工夫をした交流プランを立てて再挑戦されることを望みます。」と語っています。

三重大学データベースの構築に向けてワーキング・グループが発足

法人化を間近に控え、三重大学の様々な情報を発信し、社会への説明責任を果たすとともに、大学評価に迅速に対応することが要求されています。本学では現在ホームページに教官データベースを設けておりますが、今後はさらに検索機能を持つ、より幅の広いデータベースの構築が望まれます。このような観点から各学部からの代表と総務部情報推進室を中心にワーキング・グループが発足しました。教育、研究、事務情報を網羅した新しいデータベース作りが始まります。

投稿のお願い

各種事項(法人化問題、地域連携、国際交流、学内事業等)に関するフレッシュなニュースの提供をお待ちしております。富岡秀雄(tomioka@chem.mie-u.ac.jp)または、井上真理子(mariko-i@ab.mie-u.ac.jp)まで。場合によっては、取材に向きます。